



橋本健一郎氏

七月前半は三十日にIMFへの支払いが滞ったギリシャチプラス政権が緊縮財政プランを受入れるとの観測や、中国の国家統計局が発表した四〇六

月期国内総生産(GDP)は前年同期比七・〇%増。などのプラス材料もあったが、ギリシャの国民投票で緊縮財政反対派が多数となつたことで、ギリシャの「一口離脱懸念が強まること」、中国株急落、三週間で三九〇兆円などのマイナス材料を受け、LME銅相場はDOWN、七月十五日時点で五、五〇二・五〇ドル(セツル)と月初価格より二一九ドルDOWNの前半締めとなた。

後半は、二十九日の米連邦公開市場委員会(FOMC)後に公表された声明文については労働市場に対する見方は前進させたものの、「九月利上げ」を約束しなかつたとの認識やギリシャ議会が金融支援の条件となる財政改革法案を賛成多数で可決した。欧洲中央銀行(ECB)がギリシャの銀行向けの緊急流動性支援(ELA)の上限を引き上げたなどのプラス材料もあつたが、米投資会社「アールドマンサンクスが銅の見通しを中国経済の鈍化などを背景に、二〇一六年未までに四・五〇〇ドルまで下落するとの見解を示したこと、七月の中国製造業PMI速報値は四八・二に低下、五月月連続の五〇割れしたことからDOWN、八月一日現在、後半スタート価格から三五九ドルDOWNの五、二三〇ドル。銅建値六九万円のスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート(THS)

一二三・四五五→一二五・〇八(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は

前年比五・三%減の八一万一、八六四台であつた。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販

売台数(軽除く)は前年比一・三%減の二八万二、二九三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は

前年比一六・三%増の三万三、一二二t。

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気

銅が二・六%増の四万六、五二三t、スクラップが一四・三%増の三万三、一二二t。

輸入 輸入は電気銅が前年比五七・二%減の一、八九

海外銅、中国やペルトリコの動向が左右か
為替とも

橋本健一郎氏リポート①

七t、スクラップ〇・三%減の八、九〇〇t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比七・六%減の六万五、三二〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比〇・四%増の五万八、六〇〇tであつた。

■概況

【自動車生産】

六月の四輪車生産台数は八一萬一、八六四万台で、前年同月の八五万七、四一五台に比べて四万五、五五一台・五・三%の減少となり、一二九月連續で前年同月を下回つた。

六月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り。

乗用車六八万三、四七一台で四万四、二三八台(六・一%)の減少となり、一二九月連續のマイナス。このうち普通車は四二万五、九〇一台で二

万一、七四七台(五・四%)の増加、小型四輪車は一三万二、八四九台で二万三、七八六台(二五・二%)の減少、軽四輪車は一二万四、七三二台で四万二、〇九九台(二五・一%)の減少。

六月の国内需要は四四万二、六三一台で、前年同月比二・二%の減少であった。うち乗用車三

万四四、九三一台で前年同月比三・八%の減少、トラック七万六、七三四台で同五・八%の増加、バス九五六台で同一九・九%の増加。

輸出は前年同月比三・三%の増加(実績)。

【自動車販売】

七月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二八万二、二三九台で前年比一・三%減。四力月連續ぶりマイナス年累計では七%減。うち、乗用車二%減、貨物三・九%増、バス三・二%増。

【住宅着工戸数】

平成二十七年六月の住宅着工戸数は八万八、一一八戸で、前年同月比で一六・三%増となつた。また、季節調整済年率換算値では一〇三・三

万戸(前年比一三・四%増)となつた。

・住宅着工の動向についてみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。また、季節調整値でも、前月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつてゐる。

なお、季節調整値でみると、一八力月ぶりに一〇〇万戸を超す数字となつた。
(六面へ続く)

銅スクラップ需給

(四面より続く)

・住宅着工は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れ、持ち直しているとみている。反動減の影響が大きかつた持家についても、二カ月連続で増加となつた。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比七・六%減の六万五、三三〇t、四カ月連続マイナス。このうち、内需五万四、三八四tで七・三%減と、八カ月連続マイナス。輸出は一万〇、九三六tで九・三%減と、三カ月連続マイナス。品種別では銅条一万九、九七〇tで五・五%減と、二カ月連続マイナス。黄銅棒一万五、〇四四tで一〇・二%減と、一カ月連続マイナス。内需輸出ともマイナスで銅管黃銅棒などは二桁マイナス。

【銅電線出荷量】

前年比〇・四%増の五万八、六〇〇t。うち、国内一%増、輸出が一三・八%減。部門別では通信〇・六%増、電力四・三%増、電気機械一・三%減、自動車一〇%減。建設電販四・四%増、その他内需〇・六%増。

【輸出】 電気銅輸出が前年比二一・六%増の四万六、五二三t。銅スクラップは一四・三%増の三万三、一二二t。

【輸入】 電気銅が五七・二%減の一、八九七t。スクラップは〇・三%減の八、九〇〇t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の五・三%減。六月の国内販売台数が前年比一・三%減。生産が一二カ月連続マイナスではあるが、減少幅は三分の一程度まで縮小。ただ販売が四カ月ぶりマイナス、輸出が三・三%増。生産がついに一年間前年割れとなつた。また期待であつた販売の方も四カ月ぶりにマイナス。生産縮小幅が続くか今後の動向に注目。

・新設住宅着工数は、八万八、一一八戸で、前年同月比で一六・三%増となつた。

また、季節調整済年率換算値では一〇三・三戸(前月比一三・四%増)となつた。このところ前年同月比で四カ月連続の増加となつてゐる。

なお、季節調整整直でみると、一八か月ぶりに一〇〇戸を超す数字となつた。

・伸銅品生産は四カ月連続マイナスの前年比七・六%減。輸出の悪化から堅調さが見られた銅銅条が、二カ月連続マイナス。黄銅棒が再び一万五千t台を回復、銅管は住宅関連の低調さを受けて前月に続き減少が続いた。

・伸銅品生産は四カ月連続マイナスの前年比七・六%減。輸出の悪化から堅調さが見られた銅銅条が、二カ月連続マイナス。黄銅棒が再び一万五千t台を回復、銅管は住宅関連の低調さを受けて前月に続き減少が続いた。

・内需が急回復するとは考えにくいが住宅着工もあり今後の輸出動向注視。

・内需が急回復するとは考えにくいが住宅着工もあり今後の輸出動向注視。

が四カ月連続にプラスだった事から今後の動向に期待したい。

・電線出荷は輸出が二桁減少するも建設電販、電力の増加を受けて全体として小幅増加。

・輸出は一二三～一二五円(ＴＴＭ)のレンジへの大幅な円安トレンドから地金は増加。スクラップは内需の低迷を受けて増加した。

・輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少。スクラップ同様に小幅減少した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は電気銅建値が七五〇円から六九〇円まで下落した過程で塩漬け玉が発生したが、伸銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらない一方、メーカーで買い止めをしているところもり全般的には在庫過多。

前月に続きメーカー需要は自動車、住宅販売ともに前年比でプラスだったが足元の生産が大幅減少してとの事でまだまだ先行き不透明感が高く買入気なし。

【価格・為替予想】

今月は、中国の株価対策及び景気対策、そして新たにプエルトリコ債務問題に左右される。中国の株価および景気対策に関しては当局は①空売りの禁止②上場銘柄の約七五%の売買停止③当局による下落阻止の公約一など、もはや自由経済とは思えないほどの株価策をなりふり構わず行い、一次的に反発はしたもの、やはり有効な策とは言えず、また実需を生み出す景気対策も行つていないことから更なる下落をするのではないか?

プエルトリコ債務問題に関しては、八月一日に期限を迎える五、八〇〇万ドル(約七二億円)の債務が支払えないと言宣言アーフォルト。

ブエルトリコ発行の債券をアメリカの多くのファンデンドが税制優遇措置のためポートフォリオに入れている。

債務総額は七三〇億ドル(約九兆円)とも言われ、金融市場への影響が注目されるが、現在アメリカは救済はしないとのスタンス。

それらを踏まえた七月の銅価格は、中国当局が株価及び景気対策に關しての何かしらの表明、上海株の下落を落ち着かせ、米国がプエルトリコの救済を表明した場合、七月高値の五、七〇〇ドルを予測。いずれかの場合五、三五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の五、一〇〇ドル。

為替は、米F.R.Bの利上げについて年内説が台頭していたが新たにプエルトリコ問題が出てきたことで大きな変更があるのでではないか?ブエリトリコの救済を米国が行うにせよしないにせよ、ある程度のドル安円高は避けられない。

上値はアメリカがプエルトリコに対し救済を行わなかつた場合、米経済への影響が大きくなるとの判断から大幅円高の一〇〇円台を予測。下値は救済を行つた場合は影響は限定的との判断から一二五円台。

銅建値に關しては六六〇～七六〇円程度と予測している。